

学年	教科等	単元名	日時
第4学年	外国語活動	This is my favorite place. お気に入りの場所をしょうかいしよう	令和6年2月9日(金)

## 1 本時の目標

お気に入りの場所とその理由を、既習の英語を使って伝え合う。

## 2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 単元ゴールに向けて、目的、場面や状況を確認し、本時のめあてを設定する。</p> <p>○ 本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>マイルズ先生に伝わるように、自分や仲間のお気に入りの場所やその理由について、相手に伝える英語を考えよう。</p> </div> <p>2 自分のお気に入りの場所とその理由を伝えるときに生かせそうな表現を出し合う。</p> <p>○ やり取りの例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: Hi! I am Ko Yamaguchi. My favorite place is the music room. B: Why? A: Because I like music. I like recorders. B: Oh! It's nice. A: Do you like recorders? B: Yes, I do. A: It's good! Let's enjoy music! Nice talking with you. B: Nice talking with you too.</p> </div> <p>3 自分や仲間のお気に入りの場所とその理由について、やり取りをする。</p> <p>○ 表現づくり（キーワードメモ）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>キーワードメモの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ お気に入りの場所 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽室</li> </ul> </li> <li>○ その理由 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リコーダーを持っていて演奏するのが好き</li> </ul> </li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 100px;"> <p>お気に入りの場所</p> <p><b>音楽室</b></p> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>その理由</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 50px;"> <p>持っている</p> <p>リコーダー</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 50px;"> <p>好き</p> <p>リコーダー</p> </div> </div> </div> </div> </div> <p>○ ペアでのやり取り</p> <p>○ 全体でのふりかえりの共有</p> <p>4 仲間とのやり取りをふりかえり、よいところを共有した後、それらを生かして再度やり取りをする。（★）</p> <p>○ ペアでのやり取りのふりかえり</p> <p>○ 自分の表現の見直しと改善</p> <p>○ 2回めのやり取り</p> <p>○ 代表ペアのやり取りを視聴</p> <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <p>○ 学習をふりかえる視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現の工夫</li> <li>・ 仲間と一緒に考えたり教え合ったりしたこと</li> <li>・ これから頑張りたいことや楽しみなこと</li> </ul>	<p>○ 互いのお気に入りの場所やその理由等、知らないことが多いことを確認し、伝え合う必要感や期待感をもつことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>目的</b>: マイルズ先生に自分のお気に入りの場所とその理由を伝え、「4の2好きな場所地図」をつくる。</p> <p><b>場面や状況</b>: お気に入りの場所やその理由を、前時で考えたキーワードメモを基に、相手に伝える場面。</p> </div> <p>○ 教師と子どものやり取りで聞き取れた表現や他に使えるような表現を問うことで、話す内容や表現の幅を広げ、自分や仲間のやり取りに生かすことができるようにする。</p> <p>○ 既習の語句や表現のカードを確認することで、伝えたいことと言語材料を結び付けて、活用する語句や表現を選択・決定し、言語活動に臨むことができるようにする。</p> <p>○ 複数の仲間とやり取りをするなかで、次のような姿を称賛することで、一緒に表現づくりをしながら自他の表現の高まりを感じることができるようになる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習や知っている英語等を積極的に使う姿</li> <li>・ 質問やアドバイス等をして相手の表現についても考える姿</li> <li>・ 英語等を変えたり付け加えたりして、表現を高めようとする姿</li> <li>・ 話し手がもっと話したくなるような反応をする姿</li> </ul> </div> <p>○ ふりかえりの視点を基にして、ペアを変えてやり取りをした後に、最初のペアで再度やり取りをしたり意見交換をしたりする場を設定することで、自他の表現の高まりを実感できるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>ふりかえりの視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現の工夫はあるか（繰り返す、質問する）。</li> <li>・ 相手に伝わる表現か。</li> <li>・ コミュニケーションのポイントを意識できたか。</li> </ul> </div> <p>○ 学習をふりかえる視点を基に、学習のふりかえりを仲間と共有する場を設けることで、自分や仲間の表現の高まりを実感したり、自信をもって次時に臨んだりすることができるようにする。</p>

### 3 本時の評価規準

お気に入りの場所とその理由を、伝える内容や表現を工夫しながら、既習の英語を使って伝え合っている。  
(思考・判断・表現)【発言分析・記述分析】

### 4 板書



### 5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 荒木 光司 指導主事

- 子どもと単元ゴールと本時のめあてを毎時間確認し、必要感と学習の見通しをもたせて授業を進めていた。既習の語句や表現を子どもと確認することで、言語活動で使う表現を選択・決定する場面を意図的に設定していた。子どもが教師を頼らずに、自分たちで学びに向かうための重要な手立てであったと考える。言語活動の中間指導においては、話し手が何を伝えたいのかを、聞き手が汲み取ることができるように指導していくことが非常に重要である。4年生の段階では、ジェスチャーを最大限に生かして伝え合うことも重要である。
- 研究内容である言語活動とふりかえりにおいては、学習指導要領の3つの柱のなかの、特に学びに向かう人間性の育成へとつながっていると感じた。子どもが自ら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっている。
- 外国語を学ぶ目的は、異なる国の文化、言語をもつ人々とよい関係を築き、自分の世界を広げていくことだと考える。目の前にいる相手は、互いによい関係を築いていく仲間であるという意識をもたせて学びに向かわせることが大切である。そのため、教室を安心感のある雰囲気にし、仲間と信頼関係を築く場であることを子どもに実感させていく必要がある。

### 6 考察

- 本時の見通しをもたせる段階において、本時の目的や場面、状況について単元ゴールを基に考えさせ、ゴールイメージを共有することで、子どもは学習の必然性を見だし、モチベーションを高めるができた。本時の活動にも目的意識をもって取り組むことができた。
- モデルとなる教師と代表の子どものやり取りを視聴させたことで、子どもにやり取りに必要な表現を意識させることができ、言語活動につなげることができた。
- 子どもが安心して活動できる環境が整っており、自分の思いや考えをもち、それらを堂々と伝え合う姿が見られた。
- 言語活動の途中に、やり取りで自分が工夫したところや、仲間のよかったところをふりかえる時間を取り入れたことによって、子どもの表現を高めることができた。
- 実際に相手との会話をすることは、どのように会話が展開していくのか分からないため、本単元の単元ゴールの目的や場面、状況では、話型を示さずに言語活動を進めたほうが、より子どもの思いを伝えることができるのではないかと考える。